『アナと雪の女王』の主題歌は今年を代表する歌だ。この歌が人々の心を揺さぶる背景は何だろうか。２つの視点から考えてみた。

第一に、日本社会の閉塞状況という視点だ。バブル崩壊後、景気が低迷し「失われた１０年」「失われた２０年」など揶揄されている。現在も地方経済は冷え切った状態が続いている。また、人間関係も薄まっている。若者を中心にインスタントメッセンジャーが流行している。だが、本音を語り合える友人はその中に何人いるだろう。きっと多くの人が人間関係にがんじがらめにされ、本音と建前を使い分け生きることに疲れ果てている。

この状況は、氷を操る能力を封印し、心を閉ざし、苦しむ雪の女王エルサにそっくりだ。人々は自分の境遇をエルサに重ねたのではないだろうか。そしてこの歌はエルサが苦しみから解き放たれる場面で熱唱される。多くの人が「どこまでやれるか自分を試したい」という自己肯定の言葉に励まされたに違いない。

第二は、主人公が女性であるという点だ。日本では男女共同参画社会基本法など制定され、女性の社会進出が進んだ。一方で、セクシャルハラスメントやマタニティーハラスメントなどの被害を受けた女性も多い。女性に対する社会の視線は旧態依然のままだ。歌詞の「風よ吹け　少しも寒くないわ」の言葉の中に、私は社会の女性観を打ち破って自由に生きようとする決意が読み取れる気がする。

「Ｌｅｔ　ｉｔ　ｇｏ」は日本語の歌詞では「ありのままで」だ。しかし、実際の英語では「気にするな」という強い意志が表す。この歌を聞いた人たちはその中に、自己肯定感を超え、何かに立ち向かうときに感じる緊張感を伴う解放感を感じ取ったのではないかと思う。